

## 金属切断機で世界へ浸透 挑戦の社風で迎える 創業100周年

津根精機株式会社  
代表取締役社長

津根良史氏



り早く正確に切れる機械が求められるようになり、1970年に丸鋸切断機を開発しました。鋼材メーカーへの納入が増えていきました。自動車分野へ進出したのもこの頃ですか。

はい。自動車産業は金属部品が多く、切断工程が多いので、当社の丸鋸が採用されました。またニーズも多用で、当然、精度も求められます。当時提携していた海外仕様のままではマッチせず、お客様の要望を1つずつ受け止めて、愚直に改善してきたことがシェアを伸ばせた要因だと思います。

当社は鋸刃も製造しています。切断機と鋸刃の両方を作るメーカーは国内にはありません。当社は両方のノウハウを持ち、また鋸刃は消耗品なので定期的なユーザー回りの際、機械の調子やお客様の要望を伺えることも強みです。海外でも認められています。

輸出は1970年代から台湾が最初でした。日系企業に限らず、現地の代理店を通じてローカル企業にも入っています。日本の工作機械は品質・性能とも優れており、「メイド・イン・ジャパン」のイメージが上がったのも海外展開が進んだ1つでしょう。

2005年からはアメリカを皮切りに、タイ、ドイツに現地法人を設立し、迅速なアフターサービスを提供できる体制にしました。現在、売上約35%が海外です。

津根良史社長は2009年に兄良孝氏(現会長)から交替されました。

リーマンショックの対応をとった時期でした。現在、会長は海外、私は製造現場と、分担しています。

### —まずはYesとやってみる—

切断機の具体的な使われ方は。

昔は直径100mm以下の材料が多

く、それ以上の物はバンドソーで切断していましたが、大きな材料も早く正確に切断することが求められ、丸鋸切断機も大型化しました。

15年前から鉄道レールの切断機や、鉄道車両ホイール製造用の丸鋸切断機も製造しています。鉄道レールは大きく、しかも熱処理がしてあるため切断するのに非常に苦労しましたが、開発設計担当者が3年間試行錯誤を繰り返して、開発に成功しました。

このようにお客様の要望にひたすら応えてきたことが、現在の信頼に繋がりと、製鋼メーカーからの引き合いも多くなりました。

挑戦する社風ですね。

先代、先々代から受け継いできたものですね。私も若いときから「出来ん言うな！」と言われてきたので、お客様から言われたことには、まず「イエス」と言ってとにかくやってみようという姿勢が評価されているのだと思います。

お客様から「太平洋側の企業はスピーディーで、日本海側の企業はとろい。だが1つ1つの仕事がしっかりしている」と言われたことがあります。何事にも「ノー」と言わずに、知恵を出す姿勢が次の注文に繋がります。

簡単なものは協会社に出してもよいのですが、「難しいことは自社でやろう」と言ってきました。困難なことほど、勉強して取り組

み、自分の力、会社の現場力になります。

挑戦する姿勢を社員にどのように浸透させていますか。

時間がある時は常に現場を回って気づいたことを言っています。社員全員に同じ考えを持ってもらうのは難しいと思いますが、1割でも考えを理解して、同じ方向を向いてくれば、会社を引っ張っていけるのではないかと感じます。

若い人達にも積極的になって欲しいと、昨年外部のコンサルタントを入れた「次世代育成プロジェクト」を始めました。若手の3分の1程度を対象に、しつけを含めた人材教育を行い、それぞれ将来のリーダーとして育ててほしいと思います。

### —お客様の要望が開発の種—

現在、力を入れていることは。

省力化、無人化のニーズが高まっています。1970年頃から自動送り装置を搭載した無人機を作っていますが、バリ取り機や、長さ・重量の検査装置など、切断の前後の工程を組み合わせるニーズも増えてきました。一方、小さなモーターのシャフトを作る機械も納めています。これは材料をセットすれば最終工程まで一貫でやってしまうトランスファーマシンです。こうした複合加工の要求はますます増えるでしょう。

今の時代はカタログ商品をその

まま買う人はいません。技術部門の人間も営業と一緒にしてお客様の要望にどう応えるかを考えることが開発のヒントになります。時代と共にものづくりの仕方が変化します。新しいアイデアが生まれるのは現場です。

今後に向けての取り組みは。

来年の創業100周年へ向けて、婦中・入善工場を拡張しました。婦中工場では、機械が複合化、大型化しているのに合わせて、大型クレーンを導入し、レイアウトも見直しました。

新しい材料が日進月歩で出てきます。今はまだ少ないですが、カーボン、チタン、マグネシウム、ジュラルミンなど、軽量化や高強度の難削材への要望も出てくるでしょう。そうした課題に取り組んでいきたいと思っています。

座右の銘を教えてください。

「真剣に考えると知恵が出る。いい加減に考えると愚痴が出る」と自分にも社員にも言い聞かせています。時代の変化と共に、お客様のものづくりも変わっていきます。知恵を出して時代のニーズに応えていきたいと思っています。

### 会社概要

#### 津根精機株式会社

創業：1917(大正6)年2月  
所在地：富山市婦中町高日附852番地  
資本金：3,600万円  
事業内容：各種金属切断機、鋸刃研削盤、両端加工機、帯鋸刃、丸鋸刃、金属切断に付随する各種システム・装置の製造・販売  
従業員数：177名(2016年6月現在)  
売上：60億1,300万円(2015年9月期)  
グループ会社：津根マシントール(株)、(株)津根ワグナー・カーバイト、TSUNE AMERICA LLC、TSUNE EUROPA GMBH、TSUNE SEIKI (THAILAND) CO.,LTD.  
URL：http://www.tsune.co.jp/



### 略歴

1958(昭和33)年10月生まれ。富山市出身。1981年日本大学理工学部卒業、日立精機(株)入社。1983年津根精機(株)へ入り、1991年取締役、1993年常務を経て、2009年9月から代表取締役社長。